

## H-6

### トゥバ語における疑問詞疑問接辞の否定文での用法：egophoricityからの説明\*

江畑 冬生（新潟大学）

#### 1. はじめに

トゥバ語では、肯否疑問文と疑問詞疑問文の構造的が異なる。肯否疑問文では文末に接語=*be* が現れ、疑問詞疑問文では疑問詞疑問接辞-(*i*)*l*（5つの異形態-*il*, -*il*, -*ul*, *ül*, -*l*を持つ）が述語に付加される。疑問詞疑問接辞は、疑問詞疑問文だけでなく *čok* 「ない」を述語とする平叙文にも現れる。本論文ではこの用法を語用論の観点から考察し、自己性 (egophoricity) からの説明を行う。

(1) *bil-ir =siler =be*

知る-AOR=2HON=Q

「知っていますか？」（アオリスト AOR は主節では未来または現在を表す）

(2) *ad-iŋar kim-ül*

名前-POSS.2HON 誰-WHQ

「お名前は何かですか？」

第2節では、トゥバ語の疑問詞疑問接辞の用法を記述する。第3節では、同系のサハ語の疑問詞疑問接辞の用法を記述する。第4節では、トゥバ語の疑問詞疑問接辞が *čok* 「ない」を述語とする平叙文に現れる用法に関する検討を行う。

#### 2. トゥバ語の疑問詞疑問接辞

トゥバ語では、肯否疑問文と疑問詞疑問文が構造的に異なる。肯否疑問文では文末に接語=*be* が現れ、疑問詞疑問文では疑問詞疑問接辞-(*i*)*l* が述語に付加される。

トゥバ語の疑問詞疑問接辞は基本的に、疑問詞疑問文の主節述語にのみ付加される（なお引用節述語にも現れうるが、この場合には主節述語相当と見なす）。ただし疑問詞疑問接辞-(*i*)*l* は、文法的に必須の要素ではない。先の例文(2)から疑問詞疑問接辞を取り除いても、非文にはならない。またトゥバ語の疑問詞疑問文で疑問詞疑問接辞-(*i*)*l* が現れる場合、疑問文の答えが聞き手から得られる（はずだと話し手が想定する）という語用論的な含意がある（一方で別な接尾辞-*dir* が主節述語に現れる場合、疑問文の答えを聞き手は知らないという語用論的な含意がある。この点について詳しくは、接辞-*dir* の用法について記述した江畑 (2018) を参照されたい）。

疑問詞疑問接辞は、次の4つの場合に、疑問詞疑問文の主節述語以外に現れる。1つは反語文の場合である。反語文にも疑問詞が用いられ、主節述語には疑問詞疑問接辞が付加される。なお疑問文であるか反語文であるかは、文脈から切り離された場合には区別することができない。

---

\* 本発表中の例文は、特に断りのない限り、発表者によるフィールドワークまたは発表者の作成したトゥバ語コーパス資料（トゥバ語新聞 *Шын* 紙の電子版における 2012 年 10 月から 2015 年 1 月の記事を元に作成）によるものである。本研究は、科研費（課題番号 17H04773 および 18H03578）の支援を受けたものである。トゥバ語は、ロシア連邦のトゥバ共和国を中心に話されるチュルク系の言語である。話者約 28 万人の大半はトゥバ共和国に居住するが、ロシア他地域、モンゴル国、中国新疆ウイグル自治区等にもそれぞれ数千人程度の話者が分布する。

- (3) *on-u kancaar bil-ir-il*  
 それ:ACC どのように 知る-AOR:3-WHQ  
 「それはどうやって知るのか? (どうしても分からない)」

- (4) *mündig sös-tü kim diğna-an-il utka-zī-n*  
 こんな 言葉-ACC 誰 聞く -PST-WHQ 意味-POSS.3-ACC  
*kim bil-ir-il*  
 誰 知る-AOR:3-WHQ  
 「こんな言葉を誰が聞いたのか, その意味を誰が知っているのか? (誰も知らない)」

2 つ目は譲歩節の場合である。譲歩節は疑問詞を含み、述語動詞の形態としては主節述語同様に定形動詞の形式を取る (さらに副詞 *baza* 「また」が後続する場合もある)。以下の例のように、譲歩節述語にも疑問詞疑問接辞が付加されることがある。

- (5) *xömür daš-tiğ örtek üne-zi-ni čü-den turgustun-up tur-ar-il*  
 石炭-GEN 価格-POSS.3-ACC 何-ABL 構成される-CVB AUX-AOR-WHQ  
*baza on-u kizigaarla-ar arga-zī bar =irgi =be*  
 また それ-ACC 輸入する-PTCP.PRS 方法-POSS.3 ある =HON =Q  
 「石炭の価格が何により決まっても, それを輸入することはできますよね?」

- (6) *baydal kandig tur-gan-il baza amgi üe-de*  
 状況 どのよう 立つ-PST:3-WHQ また 現在の 時-LOC  
*öskerliiškin-ner dugayında tanış-tir-gan*  
 変化-PL ついて 互いに知る-CAUS-PST:3  
 「状況がどのようであろうと, 現時点での変化について (メンバー間で) 周知された」

3 つ目は相関構文の場合である。相関構文とは、先行節の疑問詞と後行節の指示詞とが同一指示となる構文を指す (Dixon (2010: 357) の説明では “In some co-relative constructions, each clause could make up a complete sentence on its own, the CA being expressed by a content question word in the first clause and by a corresponding pronoun or demonstrative in the second”, CA は common argument)。トゥバ語の相関構文でも、先行節には疑問詞を含み後行節には指示詞を含む。相関構文の先行節には疑問詞疑問接辞が現れ得る。

- (7) *kim ür čurtta-ar-il ol xöy-nü kö-ör*  
 誰 長く 生きる-AOR:3-WHQ それ 多い-ACC 見る-AOR:3  
 「長生きする人が多くのことを見る」 [Anderson and Harrison (1999: 89)]

- (8) *kayda xöy möögü bar-il inaar bar-aali-ğar*  
 どこに 沢山の キノコ ある-WHQ そこに 行く -IMP-1PL  
 「キノコがたくさんある所に行こう」 [高島 2008: 218]

4つ目は *čok* 「ない」を述語とする平叙文（以降では単に「存在否定文」と呼ぶ）の場合である。これまでのケースとは異なり、存在否定文では例文(9)のように疑問詞が現れないことがある。

- (9) *am čay-im čog-ul*  
 今 暇-POSS.1SG ない-WHQ  
 「いま私は暇がない」

Isxakov and Pal'mbax (1961), Krueger (1977), Aydemir (2015) などの先行研究では、疑問詞疑問接辞 *-(i)l* の用法に関する記述がない。Anderson and Harrison (1999: 88-89) では、疑問詞疑問接辞が関連構文にも現れることを指摘し例を示している（ただし Anderson and Harrison (1999: 89) は「疑問詞の関係詞的用法」(“relative uses of the interrogative pronouns”)として言及するに留まっており、関連構文という述語は用いてない)。しかしながら Anderson and Harrison (1999) でも、疑問詞疑問接辞が存在否定文に現れる例は示されていない。高島 (2008: 219) では *čok* 「ない」に疑問詞疑問接辞が付加しうることを指摘されるが、例文も分析も示されていない。

### 3. サハ語の疑問詞疑問接辞

トゥバ語と同系のサハ語でも、肯否疑問文と疑問詞疑問文が構造的に異なる（管見の限りでは、チュルク諸語のうちこの特徴を持つのは他にトファ語とドルガン語のみである）。肯否疑問文では文末に接語=*duo* が後続し、疑問詞疑問文では疑問詞疑問接辞-*(n)ij*（9つの異形態を持つ）が述語に付加される。

- (10) *kör-dü-küt =duo*  
 見る-PST-2PL=Q  
 「見ましたか？」
- (11) *tugu kör-ö-kün-üj*  
 何:ACC 見る-PRS-2SG-WHQ  
 「何をしていますか？」

サハ語の疑問詞疑問接辞も基本的には、疑問詞疑問文の主節述語にのみ付加される（トゥバ語の場合と同様に引用節述語にも現れるが、主節述語に相当すると見なす）。疑問詞疑問接辞-*(n)ij* も、文法的に必須の要素ではない。例文(11)から疑問詞疑問接辞を取り除いても、非文にはならない。

疑問詞疑問接辞は、次の2つの場合に、疑問詞疑問文の主節述語以外に現れる。1つは反語文の場合である。反語文にも疑問詞が用いられ、主節述語には疑問詞疑問接辞が付加される。疑問文と反語文は、文脈から切り離された場合には区別することができない。

- (12) *tugu kepset-er-i-n kim bil-ie-j*  
 何:ACC 話す-PTCP.PRS-3SG-ACC 誰 知る-FUT:3SG-WHQ  
 「彼が何を話すのか、誰が分ろうか（誰にも分からない）」

- (13) *kim üle-te suox xaal-ia-n baqar-ia-j*  
 誰 仕事-ABE ない 残る-FUT:3SG-ACC 望む-FUT:3SG-WHQ  
 「誰が仕事なしのままであることを望むだろうか (誰も望まない)」

もう1つは譲歩節の場合である。譲歩節は疑問詞を含み、述語動詞の形態としては主節述語同様に定形動詞の形式を取る。さらに日本語の副助詞「も」に相当する接語=*da*が後続する。以下の例のように、譲歩節述語にも疑問詞疑問接辞が付加されることがある。

- (14) *xantan aval-bik-kin-ij =da onno ilt*  
 どこから 持ってくる-PST-2SG-WHQ =も そこに 運ぶ:IMP.2SG  
 「どこから持ってきたとしても、そこに運べ」

- (15) *ardax töhö elbek-ij uonna sire inčevej-ij =da*  
 雨 どれほど 多い-WHQ そして 土地 湿った-WHQ =も  
*olbox sitere soččonon ürdük buol-ar*  
 寝床 その分 高い なる-PRS:3SG  
 「雨がどれほど多く地面が湿っているとしても、寝床はその分だけ高くなる」

先行研究でサハ語の疑問詞疑問接辞について詳しく言及したものは無い。Xaritonov (1947: 161-162) や江畑・Popova (2006: 9) でも疑問文での用法に関するわずかな記述に留まり、反語文や譲歩文に関する記述は見られない。

#### 4. トゥバ語の疑問詞疑問接辞の存在否定文における用法

第2節ではトゥバ語の疑問詞疑問接辞の用法を概観し、同接辞が反語文、譲歩節、相関構文 (の先行節)、存在否定文にも現れることを確認した。第3節ではサハ語の疑問詞疑問接辞の用法を概観し、同接辞が反語文や譲歩節にも現れることを示した。両言語の疑問詞疑問接辞は疑問詞疑問文以外にも現れるが、これらのうち反語文・譲歩節・相関構文 (の先行節) は、疑問詞を含み述語として定形動詞が現れるという点で、疑問詞疑問文と共通する。問題となるのは、トゥバ語の疑問詞疑問接辞がなぜ存在否定文 (疑問詞を含まない節) にも現れるのかである。

[表] トゥバ語とサハ語の疑問詞疑問接辞の用法対照

	疑問詞疑問文	反語文	譲歩節	相関構文	存在否定文
トゥバ語	○	○	○	○	○
サハ語	○	○	○	×	×

発表者の調査では、疑問詞疑問接辞-(*il*)が (疑問詞疑問文ではない) 存在否定文に現れる例文は合計18例が見つかった (コーパス5例, 例文集 (中嶋 (2008)) 8例, 会話集 (Dambaa・高島 (2008)) 2例, インターネット検索3例)。これらの例は、2つのタイプに分けられる。

1つは全部否定文である (2例)。トゥバ語の全部否定文では、疑問詞に接語=*daa*が後続し、否定述語と呼応する。

- (16) *ol kizi kayda =daa čog-ul*  
 あの 人 どこに =CLT ない-WHQ  
 「あの人はどこにもいない」

もう1つは話し手の心的状態に関わる文である(16例)。存在否定文の主語として現れる名詞の大半は *xöön* 「気分」、*küzel* 「希望」、*tura* 「望み」、*čay* 「暇」で、いずれにも1人称単数所有接辞が付加している。(19)のようにそれ以外の名詞も現れるが、やはり話し手の心的状態を述べている。

- (17) *teatr ba-ar xöjn-üm čog-ul*  
 劇場 行く-PTCP 気分-POSS.1SG ない-WHQ  
 「私は劇場に行く気がない」 [中嶋 (2008: 32)]

- (18) *meey dištan-ir küzel-im čog-ul*  
 1SG-GEN 休む-PTCP 希望-POSS.1SG ない-WHQ  
 「私は休みたい気持ちがない」 [Dambaa・高島 (2008: 44)]

- (19) *muŋgara-vas arga-m čog-ul*  
 悩む-NEG.PTCP 方法-POSS.1SG ない-WHQ  
 「私は悩まないわけにはいかない」 (文字通りには「私が悩まない方法はない」)

発表者は、以上の結果を踏まえながら聞き取り調査を行った。疑問の存在否定文では、聞き手の心的状態を主語としうる(例文(20)、この時には肯否疑問の接語=*be* と共起できる)。3人称の心的状態を主語とすることも可能だが、この場合にも語用論的にはあくまで話し手の判断を含意する。

- (20) *čoru-ur xöjn-üj čog-ul =be*  
 行く-PTCP 気分-POSS.2SG ない-WHQ=Q  
 「君は行く気がないのか？」

- (21) *ava-m čay-i čog-ul*  
 母-POSS.1SG 暇-POSS.3SG ない-WHQ  
 「母には暇がない(のだと話し手が判断した)」

日本語や韓国語等では、感情述語の人称制限が知られている(風間 (2013) など)。例えば日本語の「風間先生は怖い」では、感情主体は3人称主語ではなく話し手になる。トゥバ語の存在否定文にも、類似の語用論的制約がある。このような制約は、言語類型論研究では自己性 (egophoricity) と呼ばれる。自己性の特徴は、平叙文の話し手と疑問文の聞き手が同様にマークされる点である。

Widmer and Zúñiga (2017: 420)によれば、自己性は比較的新しく注目された概念であり、一般に受け入れられた定義はまだ無い。Widmer and Zúñiga (2017: 422)では、自己性は証拠性 (evidentiality) とも認識モダリティとも異なる概念だとされる。発表者の理解では、自己性とは、命題成立の判断を話し手のみが行える(聞き手は行えない、疑問文ではこの逆)ことが定義上で最も重要である。従って自己性と証拠性は、例えば発話現場における視覚や聴覚による情報などのケース(話し手も聞き手も同様にアクセス可能)において、明確な相違を見せるはずである。一方で心的状態・推測・

記憶などは、本人のみがアクセス可能な情報の典型である。話し手の心的状態に関わる文には、(22)のような例も含むと考える。この例では話し手の記憶のみが頼りであり、話し手・聞き手の双方が財布の中身を確認しながら述べるような語用論的状况では不適切となる。

- (22) *men-de*      *adirik*      *aška*      *čog-ul*  
1SG-LOC      少額の      金      ない-WHQ  
「私には小銭がない (のは記憶により分かっている)」      [中嶋 (2008: 5)]

## 5. まとめ

本発表ではまず、トゥバ語の疑問詞疑問接辞の用法を記述した。トゥバ語の疑問詞疑問接辞は、同系のサハ語の疑問詞疑問接辞よりも広い用法を持つことが分かった。特に当該の接辞が疑問詞を含まない存在否定文にも現れる点は、大きな特徴である。本発表ではこの用法に関して、自己性からの説明を試みた。すなわち、疑問詞を含まない存在否定文において疑問詞疑問接辞が現れるのは、話し手(疑問文では聞き手)のみが情報にアクセス可能な場合である。この解釈は、疑問詞疑問文での用法(疑問文の答えが聞き手から得られるはずという語用論的含意)とも合致する。

## 略号

ABE: abessive, ABL: ablative, ACC: accusative, AOR: aorist, AUX: auxiliary, CAUS: causative, CLT: clitic, CVB: converb, FUT: future, GEN: genitive, HON: honorific, IMP: imperative, LOC: locative, NEG: negative, PL: plural, POSS: possessive, PRS: present, PST: past, PTCP: participle, Q: question, SG: singular, WHQ: wh-question

## 参考文献

- Aydemir, Ahmet. (2015) Interrogative structures in Tuvan. *Turkic languages*. vol.19, 113-127.
- Dambaa, O.V.・高島 尚生 (2008) 『トゥヴァ語会話集』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Dixon, R.M.W. (2010) *Basic linguistic theory. vol. 2: Grammatical topics*. Oxford: Oxford University Press.
- Isxakov, F.G. and A.A. Pal'mbax. (1961) *Grammatika tuvinskogo jazyka. Fonetika i morfologija*. [The grammar of the Tyvan language.] Moskva: Vostočnoj Literatury.
- Krueger, John R. (1977) *Tuvan manual*. Bloomington: Indiana University.
- Widmer, Manuel and Fernando Zúñiga. (2017) Egophoricity, involvement, and semantic roles in Tibeto-Burman languages. *Open Linguistics*. vol.3(1), 419-441.
- Xaritonov, L.N. (1947) *Sovremennyj jakutskij jazyk*. [The modern Yakut language.] Jakutsk: Gosizdat JaASSR.
- 江畑 冬生 (2018) 「トゥバ語の証拠性を表すとされる接辞-*dir* の機能：話し手・聞き手の認識からの説明」 『日本言語学会第 156 回大会 予稿集』 313-318.
- 江畑 冬生・Popova Nadezhda. (2006) 『サハ語文法 [改訂版]』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 風間 伸次郎 (2013) 「アルタイ型言語における感情述語」 『北方人文研究』 第 6 号, 83-101.
- 高島 尚生 (2008) 『基礎トゥヴァ語文法』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 中嶋 善輝 (2008) 『トゥヴァ語基礎例文 1,500』 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.